

JODCニュース 37



海洋環境図の刊行	2
二つの専門学会議の記録	4
IOCの文書	5
海洋データ高度利用システム	10
海の相談室トピックス	12
JODCの刊行物一覧表	14

1988. 8

3. 資料の解析及び図集の編集

資料の解析及び図集の編集については、相互の研究者の交流により、日中両国海洋データセンターが共同で行いました。

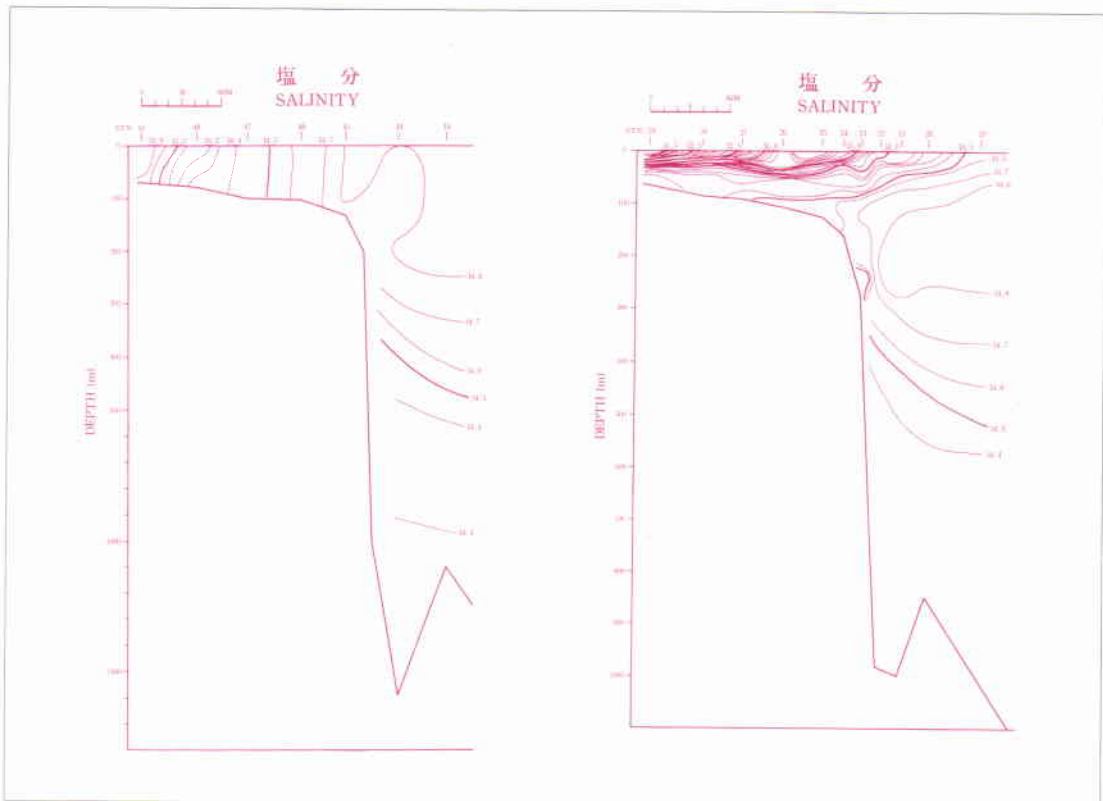
4. 図集の内容

昭和61年の調査を四季に分け、各季の調査成果に基づき海流図、水温・塩分の水平分布図並びに黒潮を横切る代表的な観測線での鉛直分布図を全128ページにとりまとめたものです。参考までに、これまでの知見として、東シナ海の場合には、中国大陸の揚子江を始めとする大河川からの流出する低塩分水が海況に大きな影響を与えており、この海洋環境図でも、低塩分水の東シナ海への広がりや季節変化を含めて明瞭にとらえられています。

本調査図集に掲載した図の種類は、右上表のとおりです。

掲載図	内容
測点図	
海流図	G E Kデータによる
力学的深度偏差	0/1,000db, 200/1,000db 1,000/3,000db
水温・塩分水平分布図	0, 50, 100, 200, 400, 600, 800, 1,000, 2,000, 3,000m (10層)
水温・塩分鉛直断面図	6観測線

本図集は、中国をはじめとする諸外国及び日本国内の海洋関係機関に配布されておりますが、若干の余部がありますのでご希望の方は、当センターまでお知らせ下さい。



二つの専門家会議の記録

第2回 IGOSS-IODE データフローに関する IOC-WMO 合同専門家会議

1988.1.18(月)~22(金)、オタワ

第1回が1984年秋、東京築地で開かれたものです。今回のホストはカナダ漁業海洋庁海洋環境データサービス(MEDS)、出席者は日(2)、加(5)、米(3)、仏、独、豪、トリニダード・トバゴ、IOC(2)です。

()内は2人以上の場合の人数で、日本からはJODC所長と米NGDCに滞在中の谷が出席しました。

この会議の仕事はIGOSS-BATHY-TESSACのデータベースをできるだけ完全・迅速に作るための方策を検討することです。

現状として、オペレーションモードで入ってくるデータの最大の弱点は、質が悪すぎることに、また、IODEチャンネルには、調査・研究機関と、さらにNODCを通過した質の良いデータが入りますが、この欠点は時間がかかりすぎることです。TOGAやWOCEは正確で早いデータを使いますので、このままでは、IGOSS-IODE計画は有効に機能しません。



オタワ MEDSは、この超近代的なビル群の1つ。センチニアルタワーズ(中央、国旗の向う側)の中にある。

対策として、フローの節目の各担当者がQC、持時間など規約を誠実に実行することの他、作業を複雑にしているデータの重複登録の問題を

解消するための措置として、NOC/NMC→RNODCへのバイパスをつくるか、統一的な船名コード表の作成、また品質改善についてはSEASの利用、QUIP IIの採用など仕事をできるだけ自動化すること、また気象・海洋学等の理論を加味したQCのアルゴリズムを統一的に作ること、さらに、個々のデータにQCの履歴を背負わせることなどの案が検討されました。



国会議事堂 風雪の歴史を感じる。

さらに、米NODCからTOGA Pacificのためのデータベースは、一週間ごとにオペレーションモードのデータを追加し、それにIODEデータをマージしていること。QCは、スクリプスの研究者に委託していること(JEDAC)などが紹介されました。

会議はこれを参考にTOGA、WOCEなどへの対応を目的とした水温データベースのパイロットプロジェクトの提案を検討しました。

提案の内容は…

- ① WDCにある1987年以前の全てのデータのQCを各国のNODCが分担して行い(2ケ年)、その後もWDCに集るデータのQCを地域センターのようなものに分担させることによって、エラーフリーのデータベースをつくり、CD-ROMで配布すること。

- ② これとは別に、各センターが協力して米 NODC の TOGA Pacific 計画を全地球

版に拡大し、SPAN、OMNET 等でオンラインサービスすることなどです。

RNODC と気候データサービスに関する第 1 回諮問会議

1988.2.15(月)～19(金)、英ウォームリー

1984年10月、モスクワでの第5回が最後となったRNODC専門家会議の発展したものです。今回はロンドンの南郊にある国立海洋科学研究所(IOS)で開かれました。出席者は日、英(7)、米(5)、ソ(2)、加、仏、独、印、IOC、WMOです。

会議の目的は、気候データ管理における IODE の役割を検討し、必要ならば、規約等の改訂を勧告することです。



この海洋学研究所は、何故か林の中にある。ウォームリーはロンドンとポーツマスの間。鳥が鳴き、蝶が舞う片田舎である。

会議では、はじめに当面の四つのビッグプロジェクトのデータ管理計画の紹介がありました。一口でいえば、TOGAは動き出しており、WOCEは提案の段階、JGOFSSはこれから考えよう、IGBPはまだ早すぎる…といったところでした。

すなわち、TOGAはハワイ大 TOGA Sea Level Center とフランスの Subsurface Data Center が活動中です。

WOCEではトレーサーとか、栄養塩、衛星アルチメトリーなども扱うことになりませんが、

- ① 分野毎にデータセンターを設け、それぞれに専門の研究者を配してQCや図表の編集に責任をもたせること。

- ② 研究グループによる解析センターの設置。

- ③ WOCE推進の中枢に、Data information Unitをつくること。などの考え方が紹介されました。

JGOFSSは、化学、生物など、さらに広い分野のデータを扱うことになってきますが、基本的にはデータをなんでもかんでも一ヶ所に集積するといったバンク方式ではなく、個々のデータの測定方法がよく見えるような管理が望ましいとのことでした。



玄関のひさしの上にとぼけたオジサンが立っているの、海との係わりが分る。

IGBPは、さらにスケールの大きい計画ですから、今ここで海洋データだけをとり出して議論するのは時期尚早です。

当然のことですが、これらのビッグプロジェクトが考えるデータ管理は、IODCの伝統的な考え方に一致しません。

たとえば、米NODCのTOGA Pacificのための活動は、これをそのままIODEにとり込めば、特定のプロジェクトのために働くものではないというIODE設立当時の考え方をかえる事になります。一週間毎に更新するデータベースは、「使用済データの交換」よりも「使用前／使用中データの共同利用」に重心を移します。QCの責任を体制外の研究者に委託することも、研究者は何事にもFreeという伝統的な考え方に反します。個々の研究者の手におえない図表の作成なども望ましいところですが、これはセンターが研究の分野に足を入れることになります。

一方、研究者の側からみますと、ビッグゆえに、仲間だけで共同利用システムは作れない。本来、海洋研究のためにあるIODEの組織と機能の活用は当然ということになります。IODEの変身は、時の流れです。

議論では、

- ① これらのビッグプロジェクトに、GE/RCDsのメンバーをIODEの代表として積極的に参加させること。

- ② 1990年代の海洋データ管理を主題として、IODEと研究者の代表によるワークショップを来夏、アメリカで開くこと。

- ③ 試みとして、前述オタワ会議でのパイロットプロジェクトを支援すること。
等が提案されました。

この他、会議ではハード、ソフトの色々な技術面の話題もありましたが、このうち通信手段について述べますと、

アメリカは、NODCと研究所を結び、さらに細いながら日欧に延びているSPANの現状。

EECは圏内のNODCを既設のネットワークに乗せることを検討中であること。

日本、カナダは、それぞれ各庁内のネットワーク構想を紹介しました。これらの話を通して着実に発展している電算機と通信ネットワークも、IODEの役割、各コンポーネントの機能に根本的な変革をもたらすものであるという、共通の認識のようなものができました。



ユーリ・オリューニンは、8年間のI O C勤務を終え、この6月にモスクワに帰り、元の海洋学者に戻る。I O D Eへの献身に対し感謝の記念品を贈った。

I O C の文書

J O D C は昭和48年から、I O C の刊行物・文書保管センターとしての活動を行っており、次のような刊行物・文書を受領し、保管しています。

1. マニュアル&ガイド (No.1-19) 及び I O C マニュアル、I O D E ハンドブック
2. 会議レポート類
 - ① 総会 (Assembly)
 - ② 執行理事会 (Executive Council)
 - ③ 各種下部組織(Subsidiary Bodies)
3. 研究集会レポート(Workshop Report) (1~53)
4. I O C 技術シリーズ(Technical Series) (1~32)
5. I O C 回章、I O C / W M O 合同回章(Circular Letter)
6. I O C 情報集

これらの I O C 刊行のもの他、ユネスコの発行する UNESCO Technical Papers in Marine Science (1~53) や UNESCO Reports in Marine Science (4~45) も受領、保管しています。

これまでに刊行されたマニュアル&ガイドは次のとおりです。()内は刊行年。

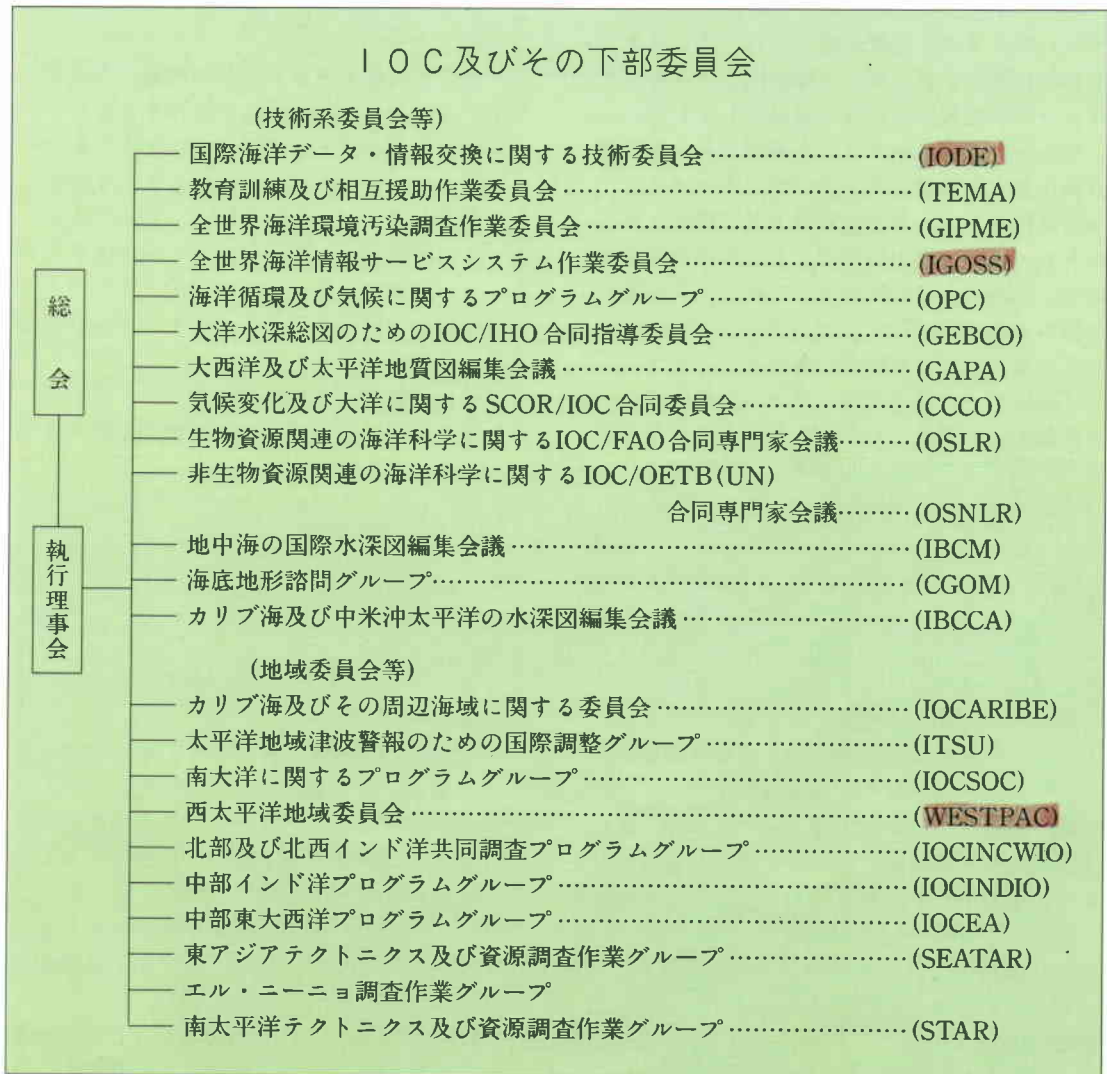
No.1	I G O S S データ(BATHY/ TESAC)の保管・交換ガイド 改訂版	(1985)
No.2	世界海洋データステーションカタログ	(1975)
	同 修正版	(1976)
No.3	海洋データ(BATHY/ TESAC)の収集・交換オペレーションガイド	(1984)
No.4	海洋及び海洋気象の測器、観測手法ガイド	(1975)
No.5	国立海洋データセンター設立ガイド	(1975)
No.6	津波警報システムにおける通報方式 改訂版	(1988)
No.7	海洋汚染(石油)モニタリングパイロットプロジェクト(I G O S S) オペレーションガイド	(1976)
	同 付録：海水中及び海岸における油分の監視マニュアル	(1977)
No.8	海洋環境データ・情報カタログ(M E D I 試行)	(1976)
No.9	国際海洋データ交換マニュアル(第4版)	(1976)
補遺 1	GF3 PART 1: I O C 標準MTフォーマット技術資料(第1版)	(1980)
補遺 1	GF3 PART 2: I O C 標準MTフォーマットコード表(第1版)	(1982)
補遺 1	GF3 PART 3: I O C 標準MTフォーマット導入ガイド	(1984)
補遺 2	R N O D C ガイド	(1984)
No.10	廃版(No.16がこれに代わる新版)	
No.11	海底堆積物中の石油量の分析	(1982)
No.12	海洋環境モニタリングにおける化学的手法	(1983)
No.13	海水中及び海岸における石油分の監視マニュアル(MARPOLMON)	(1984)
No.14	水位観測マニュアル	(1985)
No.15	海面極表層のサンプリングマニュアル	(1985)
No.16	M E D I カタログ	(1985)
No.17	G F 3 フォーマット	(1987)
No.18	波浪データ交換に関するユーザーガイド	(1987)
No.19	I G O S S - S O C ガイド	(1988)

IOC 刊行物・文書保管センターで 保管しているものの例



- | | |
|-----------------------|----------------|
| ① 会議要約 | ⑦ ワークショップ・レポート |
| ② IOCマニュアル | ⑧ IOC情報集 |
| ③ IODEハンドブック | ⑨ 津波ニューズレター |
| ④ IOCマニュアル&ガイド(No.16) | ⑩ ユネスコ海洋科学技術論文 |
| ⑤ IOCマニュアル&ガイド(No.19) | ⑪ ユネスコ海洋科学報告 |
| ⑥ テクニカルシリーズ | ⑫ 合同専門家会議報告 |

IOCの組織の構成は下図のようになっています。ここに示した総会、執行理事会、各種の下部組織の会議についてそれぞれ報告書が作成されます。総会は2～3年に一度、執行理事会は毎年開催され、JODCではそれらの報告書をすべて保管しています。どうぞ御利用下さい。



海の相談室トピックス

—テレホンサービスによる海洋情報の提供—

1. 現 状

日本海洋データセンター「海の相談室」で提供している各種データ及び情報の提供方法の一つとしてテレホンサービスがあります。

このテレホンサービスは昭和61年3月から03-540-4040（ご用はシオシオ）の電話番号で開始され、提供情報の内容は3月から6月までは潮干狩りを目的として、東京湾内の主な潮干狩り場所9ヶ所の潮干狩りに適する日と、時間帯を提供しています。

また、潮干狩りは季節的なものであるため、6月30日で潮干狩り情報を打ち切り、7月1日からは、海洋情報の普及を図るため小・中学生程度を対象として海に関する自然科学的な事象を「海の豆辞典」のタイトルで引き続き月3本の予定で提供しています。

2. 潮干狩り情報の利用度数集計

	昭和61年	昭和62年
3月	9,400	1,461
4月	10,890	5,847
5月	5,021	3,606
6月	1,760	1,372
合計	27,071	12,289

その他に、期間中に直接海の相談室に問い合わせ件数として300件があります。

一方、テレホンサービスと並行して、「東京湾潮干狩りカレンダー」を次のように配布しました。

(配布先)	(配布数)
海の相談室で配布	5,000枚
日本水路協会で配布	17,500枚
〔内 訳〕	
個人郵送	4,500枚
池袋西部デパート	2,000枚
有楽町西部デパート	1,000枚
JR 藤沢駅等	2,000枚
その他マリナー等	8,000枚

「東京湾潮干狩りカレンダー」では、各潮干狩り海岸のテレホンサービス番号と管理事務所の電話番号が紹介されているので、需要者は直接情報を入手できるようになっています。

3. 「海の豆辞典」情報の利用度数集計

	昭和61年	昭和62年
7 月	3,179	1,214
8 月	1,908	1,022
9 月	1,174	812
10 月	1,296	1,524
11 月	1,318	533
12 月	774	1,219
1 月	1,681	1,817
2 月	540	999
合 計	11,870	9,140

4. 今後の対応

本庁水路部ではテレホンサービスを継続するに当たって、対象を一般の人までとして、タイトルを「海洋情報サービス」に変更して提供情報の内容を次のように変更します。

- ① 日の出、日の入：一般的な情報。
- ② 潮の満潮、干潮時刻と潮位差：釣り、潮干狩り、船舶の航行等。
- ③ 東京湾、相模湾の潮流、海流：ヨット、モーターボート、水泳、サーフィン、スキューバダイビング等。
- ④ 黒潮の水温と流れ：ヨット、モーターボート、船舶の航行等。

- ⑤ 表面水温（東京、千葉、神奈川、静岡、伊豆諸島）：釣り、水泳等。
- ⑥ 催し物のお知らせ：船の一般公開、海上のレース等。
- ⑦ その他；海図・書誌等の新刊のお知らせ等。
なお、原稿は旬毎に作製する。

5. 管区におけるテレホンサービスの現状

現在テレホンサービスを実施している管区は次のとおりです。

第五管区……TEL 0 7 8 - 3 3 3 - 0 0 7 3
提供内容 潮汐、潮流、海流、行事等。

第六管区……TEL 0 8 2 - 2 5 2 - 2 3 1 5
提供内容 潮干狩りの潮汐、日出没、水温、海の知識

第七管区……TEL 0 8 3 8 2 - 2 - 0 1 7 7
提供内容 風向、風速、波浪
キャプテンシステムを利用した
情報提供、潮干狩り、釣り。

第九管区……TEL 0 2 5 - 2 4 6 - 1 0 0 0
提供内容 潮汐、潮流、海流、水深、その他、海に関する自然科学的な事象を易しく解説する。

その他の管区でも現在それぞれ実施について検討しています。

J O D C の刊行物一覧表

逐次刊行物

誌名	創刊年月日	刊行号数
J O D C ニュース	昭和46年3月	No.1 ~ No.37(半年刊)
国内海洋調査一覧	" 47年12月	No.1 ~ No.20(年刊)
Oceanographic Atlas of KER	" 55年3月	VOL.1 ~ VOL.8(年刊)
RNODC Newsletter for WESTPAC	" 57年3月	No.1 ~ No.7(半年刊)
海洋調査報告一覧(国内海洋調査機関の情報)	" 59年3月	1975年版 ~ 1984年版
日本近海海況図	" 62年3月	1985年版 ~ 1987年版
Data Report of KER(Phase II)	" 63年3月	VOL.1 (年刊)
日中黒潮共同調査研究海洋環境図	" 63年3月	VOL.1 (年刊)

その他の既刊刊行物

誌名	発行年月日
海洋環境図(外洋編-北西太平洋)	昭和50年12月(海洋資料センター編集)
国際海洋資料交換便覧(第4版)	" 53年3月
海洋環境図(外洋編-北西太平洋II)	" 53年3月(海洋資料センター編集)
海洋環境図(海流編)	" 54年3月(海洋資料センター編集)
Data Report of KER(No.1 ~ No.9)	" 54年9月
国内海洋調査船一覧	" 56年3月(JODC ニュース増刊号No1)
海洋地球物理/海上磁気重力データカタログ	" 56年3月(JODC カタログNo.1)
Guide to CSK Data(Apr.1965 ~ Dec.1977)	" 56年3月
海洋資料センター所蔵 資料目録	" 57年3月(JODC ニュース増刊号No2)
WESTPAC Data Management Guide	" 57年3月
海洋地質地球物理データカタログ	" 58年3月(JODC カタログNo.2)
水深データカタログ	" 58年3月(JODC カタログNo.3)
日本近海海流統計図	" 58年3月(JODC SP No.1)
实用塩分と海水状態方程式	" 58年3月(JODC ニュース増刊号No4)
WESTPACデータ管理ガイド	" 58年8月(JODC マニュアルガイドNo.1)
潮汐調和定数カタログ	" 59年1月(JODC カタログNo.4)
海底地形図(北西太平洋)	" 59年3月(JODC SP No.2)
沿岸海域海洋データカタログ(東京湾)	" 59年3月(JODC カタログNo.10)
实用塩分と国際海水状態方程式	" 59年6月(JODC マニュアルガイドNo.2)
波浪データカタログ(測器観測)	" 59年9月(JODC カタログNo.11)
沿岸海域海洋データカタログ(伊勢湾・三河湾)	" 60年3月(JODC カタログNo.14)
日本海洋データセンター所蔵文献目録(国内編)	" 60年3月(JODC カタログNo.15)
潮流データカタログ	" 60年3月(JODC カタログNo.16)
沿岸海域海洋データカタログ(大阪湾)	" 60年3月(JODC カタログNo.17)
海洋情報便覧	" 60年3月(JODC SP No.3)
GF-3マニュアル(国際海洋データ交換用IOC汎用フォーマット)	" 60年3月(JODC マニュアルガイドNo.3)
海流観測情報	" 60年10月(JODC カタログNo.18)
日本海洋データセンター所蔵文献目録(国外編)	" 61年3月(JODC カタログNo.19)
沿岸海域海洋データカタログ(瀬戸内海東部)	" 61年3月(JODC カタログNo.20)
沿岸海域海洋データカタログ(瀬戸内海西部)	" 61年3月(JODC カタログNo.21)
日本近海波浪統計図表	" 61年3月(JODC SP No.4)
沿岸海のアトラス 瀬戸内海	" 61年3月(JODC SP No.5)

J O・D C の刊行物



— お知らせ —

〔防衛庁BTデータ〕

従来、防衛庁BT観測データについては、海上自衛隊海洋観測年報からファイル化をしていましたが、今回、1964年～1986年のデータを磁気媒体で提供を受け、一般利用者に供するよう処理しましたのでお知らせします。

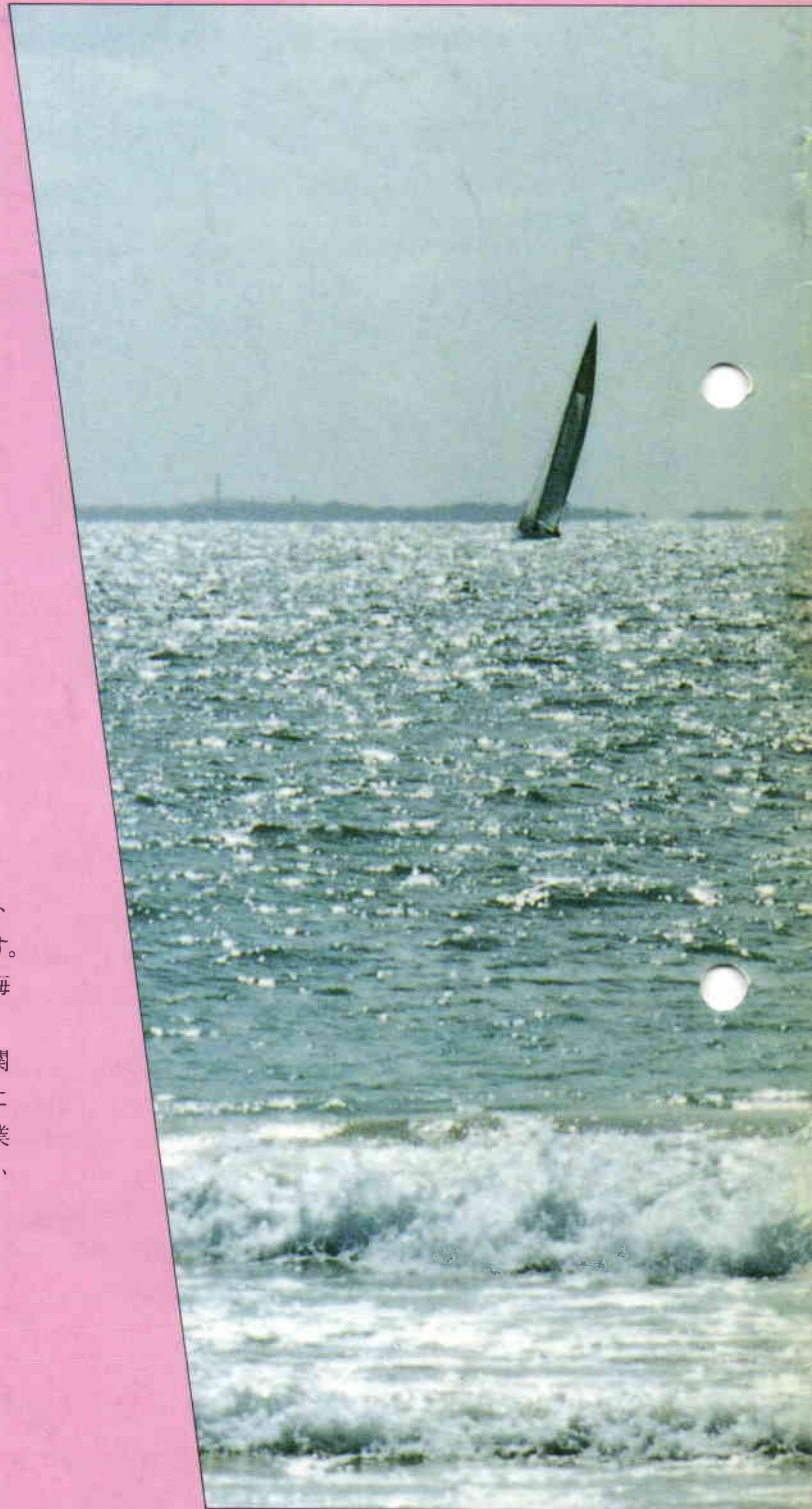
MBTデータは137,920点、XBTデータは37,010点がJODCマスターに追加され、国内MBT、XBTの全体量が、それぞれ271,240点、64,490点になりました。

なお、これらのデータは提供可能ですので、利用希望者はJODCまでお申し出下さい。

※ B T…航走式水深水温計 (Bathy Thermograph) = MBT

X B T…投下式水深水温計 (Expendable Bathy Thermograph)

表紙：オーストラリア西海岸 パース



編集後記 海洋開発、ウォーターフロントの展開にあたり、まず必要なのが海洋情報です。海洋施設を建設し、運営する海域の風、波、海流、潮汐、地震等、様々なデータが必要です。

JODCでは、沿岸域の利用・開発構想に関連して、今後益々多様化する海洋情報の需要に対してきめ細かに対応したデータセンター業務を行うべく努力を続けていきたいと考えていますので、皆様のご支援をお願いいたします。

編集発行：日本海洋データセンター(JODC)

〒104 東京都中央区築地5-3-1

海上保安庁水路部

TEL (03)541-3811

FAX (03)545-2885